

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700626		
法人名	有限会社坂元		
事業所名	グループホーム城山苑	ユニット名	西ユニット
所在地	宮崎県都城市山之口町山之口3940番地		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、天気の良い日は散歩に出かけたり、苑庭でレクをしたり、季節ごとに花見・ドライブ・少人数での食事・買い物・家族会・祭り・運動会等地域との交流が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには法人理事長や事務長が勤務しており、職員との距離も近く、ホームの状況把握も適切に行っており職員からの意見も言い易い雰囲気である。運営推進会議はコロナ禍で書面での実施となっているが、その資料は詳細に作成されており、委員からの意見もきちんと整理された議事録は実際の開催と劣らない非常に内容の濃いものとなっている。理念の他に具体的なケアでのスローガンが定められており、職員全員が真摯に利用者や家族に向き合い、ケアの出来ているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、理念・スローガンを皆と唱和しながら再確認して実践につなげている。	理念はホーム設立時に定めており、より具体的なケア対応としてのスローガンも決められ職員全員が理解・共有して実践をしている。	現状に即した理念やスローガンとなっているかを定期的に職員全員で検討し、見直しが必要であれば見直すなどの取り組みに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	好天時の近隣散歩、季節毎の花見ドライブ等で、地域の方々と交流をしている。	自治会に参加しているがコロナ禍の現状で行事はほぼ開催されていない。ただ近隣の小学校の運動会では駐車場を提供したり、マラソン大会では沿道で応援するなどできる限り地域との付き合いを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	コロナ感染予防対策により、地域の方々と直接交流の場は設けていないが、運営推進会議や地域の方の問い合わせ等で、理解や支援に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議そのものができていません。議事録(資料)を送付して返事を頂きサービス向上に努めている。	コロナ禍で会議は難しいが利用者の状況や活動報告、職員体制など詳しく書面で報告し、それぞれの議題について返信での意見を求めている。意見により利用者の近況など写真入りで家族へ文書報告を行うなどサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	同じく資料を送付し、実情を理解して頂いていると思います。	今までも会議などへの参加や質問事項など気軽に連絡できる関係であったが、コロナ禍の対応や感染予防での物品の調達など市の担当者と更に緊密に連絡・相談・協力が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修を行い意識をもって行動するように心がけています。利用者様の状態によっては、時間を決め施錠しています。	外部での研修にWebで参加したりホーム内部の勉強会も定期に開催しており、職員全員が身体拘束の弊害をよく理解し拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックに注意しケアの実践に努めている。		

宮崎県都城市 グループホーム「城山苑」(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングで勉強会を行い、スキルアップに努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体ミーティングの中で勉強会を行い、職員全員が理解できるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には契約時に書類に基づき説明を行い理解と同意を得ている。料金改定時などは文書にて、説明同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを取り意見要望を聞いている。それ以外でも、家族面会時に声掛けし、意見要望を聞き入れている。外部者へは、運営推進会議等で報告している。		家族へのアンケート実施や面会(現在は2人まで15分程度)時に状況報告して意見を聞く機会を設けている。また月1回は利用者の状況・状態報告も文書で行っており、状態変化時などは随時連絡を取り家族の意向や意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の意見等は都度上司に伝えたり、個人面談時に話し相談している。		リーダー会議や全体での会議、ユニット毎のミーティングを定期に開催して、職員の意見を聞く機会を設けている。物品の購入や行事での提案など検討し運営に活かしている。理事長や事務長がホームで業務しており、職員との距離も近く現場の状況も良く把握されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い承知出来るようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間計画のもと月1回の全体勉強会で研修を行っている。施設外研修は可能な範囲で参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防対策で活動自体が減っているが、オンラインでの意見交換が出来るときには参加している。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化にて不安や戸惑い、帰宅願望等が見られる事もある為、傾聴し本人が不安に思っている事、要望等を聞き出して情報を職員間で共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、本人が安心して生活できるように話し合い家族と職員の思いをお互いに伝えあえるような関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の健康・安心・安全を基本に考え、本人が一番必要としているサービスを家族と共に検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤時、一人一人の利用者に顔を見て挨拶を交わし、その日の表情や体調を見て状態を把握する。そこから個々の出来る事判断したり、感謝の言葉を掛けたりして意欲を引き出せるように接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時、面会制限が有る時は電話、手紙・写真等で現状報告をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策で、県や市の指示に沿って対応しています。感染状況に応じ、制限を設けながら交流できるよう対応している。	直接、家族との面会も行えるよう取り組んだり、家族の支援で馴染みの散髪店を利用したり、ドライブで利用者の自宅周辺を巡ったりと、現在できる限り馴染みの人や場との関係が継続するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操・レクリエーション等に参加できるように、アイデアを取り入れ全員が楽しめるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方からの相談があった場合には、出来る限りの対応を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さんからの思いを知る事は難しい面もあるが、声掛けし引き出せるように努めている。家族からの希望等にも傾聴している。	利用者や家族からの聞き取りや、日頃から利用者の表情や言動などに留意して思いや意向の把握に努めている。特に入浴時はゆっくりと話が聞ける大事な時間と捉え思いや意向を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や来苑時、病院受診時など会話の中で知る事ができ利用者さんと向き合う事ができている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や精神面、その都度関わりながら気になった事に対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には現状を伝えプランに取り入れてもらい、出来上がったケアプラン等何度も目を通し、プランに沿ったケアが出来るよう話し合い介護計画作成に努めている。	毎月、担当職員がモニタリングを行い3ヶ月に1回介護支援専門員が総括でのモニタリングを実施している。利用者や家族、職員の意見や情報をもとに作成し担当者会議で決定している。状態の変化時は随時、計画の見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや様子は記録に入力したり、連絡ノートに書き込んだりしながら共有している。			

宮崎県都城市 グループホーム「城山苑」(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、家族、職員、看護師、主治医と連絡と取り合い、情報を共有しサービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からパン屋さんに来ていただきおやつや朝食などで喜んでもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診と変化が見られた時には、すぐに診てもらえる協力医がいる。	かかりつけ医は利用者や家族の希望で決まっている。受診時は職員や家族が付き添うが、家族だけの場合は電話での連絡や状態など文書を作成して、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時にバイタル測定を行い、随時体調に異変を感じたら看護師に報告、看護師の指示により、その後の行動をとっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できる限り医師や看護師、ケースワーカーと連携をとり情報交換している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、説明と同意を得ている。体調の変化等で、その時期を感じた時には、随時ご家族の意向を確認し、看護師、主治医、職員と連携を取り支援に取り組んでいる。	重度化や看取りに関する指針を定め契約時に文書で説明し同意を得ている(状態により家族への意向の再確認も行っている)。指針には具体的にホームでの対応が記載されており、看取りを希望される利用者の看取りケアも関係者で方針共有して実際に行われている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡・連携について勉強会で訓練している。			

宮崎県都城市 グループホーム「城山苑」(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定や地震時の初期対応訓練を行っている。		現在はコロナ禍でもありホームのみでの訓練の実施であるが、地震や火災を想定したり、抜き打ちでの通報訓練など行い職員全員が災害時の対応が出来るよう取り組んでいる。市が開催した災害対策の研修会にも参加して対応を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で反省や今後の課題を取り上げ、職員一人一人が再確認する。優しく、分かりやすい言葉かけに努めている。		利用者一人ひとりのペースに合わせた生活支援に努めている。声掛けは目上の方への言葉かけと意識し配慮して行っている。居室での排泄ではドアを必ず閉め、膝布を掛けてケアを実施したり、入浴での同性介助を希望される方に対応したり、尊厳やプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思や表情等から思いをくみ取り傾聴に心掛け寄り添う。外部から来る髪カット時は、長さや髪染めの希望等、自己決定出来るように声掛けしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしながら、一日をどう過ごしたいか出来るだけ希望に沿った支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思や好みを尊重した対応をしている。ボタン付けやズボンのゴム入れなどの衣類の修理を行う。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、米の選別の手伝い、食後は食器を重ねたりの片付け等してもらう。お盆拭きをして頂く。		ホームや併設のデイサービスで調理がされており、季節の食材を使ったり、行事では特別に献立を行っている。誕生日には利用者から希望を聞いて献立を行うなど少しでも食事が楽しめるよう取り組んでいる。可能な利用者はお膳拭きを役割として行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事の量や形態、食器の種類を選び提供している。水分摂取量の少ない時は、お茶だけでなく好みの飲み物を飲んでもらい必要量の確保に努めている。			

宮崎県都城市 グループホーム「城山苑」(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる利用者様は見守りを行い、介助の必要な利用者様は介助にて口腔内の清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し、その人に合ったトイレ誘導や声掛けを行っている。	排泄パターンを把握し日中は定時でのトイレ誘導を行っている。取組みによりリハビリパンツから綿パンツ・尿取りパットに改善した利用者もおり排泄の自立にむけた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者様には、牛乳やヨーグルト等を摂って排便を促したり腹部マッサージを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を気持ち良く楽しめるように、希望に合わせて柔軟に対応している。	同性での介助を希望される方には同性での介助を行い、一番風呂の希望や時間の希望にも柔軟に対応して、少しでも入浴を楽しめるよう取り組んでいる。個浴であり利用者とはゆっくりと話せる時間と捉えてケアを実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、休憩したり安心して過ごせるように声掛けや見守りを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の用法容量について理解している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事の役割を持ってもらい実施している。洗濯物干し・たたみ・テーブル拭き・お盆拭き・食事時の挨拶、レクでの歌など。			

宮崎県都城市 グループホーム「城山苑」(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩して季節を感じて頂く。その他、外出や行事などは感染状況によって実地している。		コロナ禍でもあり以前ほど頻回ではないが、ドライブで花見に行ったり、遠足で外食をしたり、スーパーでの買い物、ホーム近所の散歩など可能な限り日常的な外出の支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1万円程度のお金を預かる。各個人の出納帳を作り管理。収支については家族に確認。サインをもらう。月1回のパン販売にて使っている。感染状況に応じ対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1回、手紙と最近の写真と同封し、家族への近況報告をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールから、外の四季折々の風景が見渡せ季節感を感じることができる。会話が弾み心地良く過ごせる。小学生の作品には、癒されている様子があります。		リビングでの配席やソファの配置を考えたり、利用者や近所の小学校生徒の作品を掲示したり、季節の植物を置いたり、採光や温度など意識して調節したりと利用者が少しでも居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で話される時には、椅子を準備したりソファに誘導したりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物を持って来られ、飾ったりされている。(家族の写真・趣味の物など)		馴染みの物の持ち込みは基本的に自由であり衣類ケースやテーブル、椅子、テレビ、家族の写真など持ち込まれている。利用者一人ひとりの状態を考慮して家具などの配置にも気を遣い、少しでも安全に居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には個人の名前(家族の同意あり)、トイレ・お風呂場などの場所を記すものなどを表示している。			